

コウノトリを育み、共に活動を展開する豊岡市

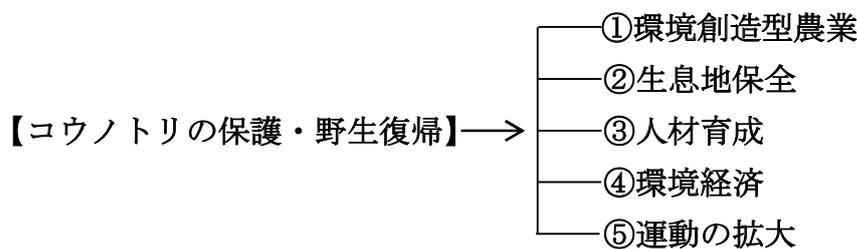
岸根真志

1. はじめに

コウノトリは1956年に特別天然記物に制定され、環境レッドリストにおいて絶滅危惧類ⅠA類（CR）〔絶滅寸前〕とされている種である。

また、豊岡市は人口約8万4千人であり、コウノトリと共に生きる豊岡市としてコウノトリの保護、野生復帰の取り組みから、さまざまな人と自然、人と人との関わりを生み出し地域づくりに繋げている。今回の生物多様性研究部会での視察を通じ、地域活性化へ向けての活動についてまとめてみた。

2. コウノトリの保護・野生復帰から展開される活動



【コウノトリの保護・野生復帰】

1965年からコウノトリの保護に取り組み2005年には放鳥、2007年には野外でのヒナが誕生し、繁殖が続いている。飼育個体約100羽、野外個体は約70羽が生息している。今後は、豊岡市のコウノトリの生息環境は、ほぼ飽和状態であることから、全国的に個体群の生息エリアの拡大を図っていく必要がある。

①環境創造型農業

「コウノトリを育む農法」として「コウノトリの餌を増やす」という観点から稲と生き物を同時に育むよう化学合成農薬の削減や化学肥料の削減、冬季湛水などの農法の採用を農家に呼びかけた結果、水田の作付け面積は毎年増加の一途をたどり、平成27年度では329.3haになっている。生産された米は「コウノトリ育むお米」として、市場では一般栽培米の2割～5割高で販売されている。

また、米だけではなく「コウノトリの舞」として残留農薬、生き物を育む栽培技術など一定の要件を満たす豊岡市独自のブランドを立ち上げ、農産物及び関連商品の販売を行っている。農産物の作付けにあたっては多くの労力がかかり収穫量のリスクが高いと思われるが、積極的に農協が推進することにより農法の普及を行い、ブランド化によりリスク低減をおこなっている。

②生息地保全

湿地はコウノトリの生息拠点であり、多くの休耕田の活用や国交省管理の円山川河川区域内での人口湿地の造成等により湿地のネットワーク化を図っている。

また、今回、視察した田結（たい）地区は、休耕田となった土地をコウノトリの生息地として価値を見出すことで、地元NGOや研究者や企業、行政など様々なステー

クホルダーが参画し湿地造成のボランティア、教育活動、災害防止事業、研究活動が進められてきた。また、地区住民が生産性を持たなくなった水田に対して、新たに生物多様性のある湿地としての価値を認識し、地区の共有財産として総出で管理を行っている。これは、田結地区住民は、先祖代々厳しい自然環境の中で生活してきたことから互助に対する意識が強く、共同作業やコモンズ（土地の共同利用管理制度）が強く機能しているためであると思われる。この地区住民による湿地の管理は「新たなコモンズ」として注目されているところである。

さらに、田結地区では、将来的に地区が存続することを目指し人と自然が共生し「生物多様性を基としたコモンズの再構築」として取り組んでいる。しかしながら、役員の方に話を聞く中では若年層の定住についてはハードルが高いようである。

③人材育成

子供への環境教育として田んぼの学校（NPO法人コウノトリ市民研究所）の開催や他に小学校の授業として生き物調査事業などをおこなっている。

田んぼの学校は毎月一回開催され親子平均30名程度で100名程度の参加もある。季節の生き物や植物探しなどを中心に実施されている。ゾバ打ち体験なども開催されるようである。他に高等教育機関として、兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科が兵庫県立コウノトリの郷公園内に立地している。

④環境経済

豊岡市では環境と経済をともに発展させるとした戦略目標により環境都市「エコバレー」目指し外貨獲得のための「大交流」を進めるとしている。コウノトリツーリズムとして、コウノトリ文化館の整備や市民ガイド、「観光」「体験」さらに踏み込んだ「貢献プログラム」実施などが行われている。

⑤運動の拡大

円山川下流域及び周辺水田がラムサール条約湿地に2012年に登録された。登録面積は560haであり、基準②の絶滅の恐れある種や群集を支えている湿地および基準⑧の魚類の食物源、産卵場、稚魚の生息場としての重要な湿地といった登録基準を満たしている。また、豊岡市では、生物多様性地域戦略として地域、学校、市民団体、NPO、農業関係団体などの関係コミュニティに生物多様性保全を啓蒙・啓発し、生物多様性に対して多くの市民からの共鳴を図ろうとしている。

3. 終わりに

各視察場所共に、説明をしていただいた方々からコウノトリの保護・野生復帰を地域資源とし様々な関連を生み出し、又それにより地域を発展させようとする思いが伝わってきた。地域づくり・地域活性化において、我々は今そこにあるものに気付きそれを生かし活用していくことが将来の進展に繋がると強く感じた処である。

参考文献【豊岡市 コウノトリの野生復帰のあしあと】

【豊岡市 田結地区の挑戦 コウノトリと共生して暮らす村づくり】